Tag	番号	部門テーマ名(日本語)	部門テーマ名(英語)	主オーガナイザー	副オーガナイザー	E-mail	部門テーマ概要(日本語)	部門テーマ概要(英語)	分野区分	ポスター発表
災害	1	災害時の交通	Transport issues after disaster	倉内文孝・岐阜大学 工学部社会基盤工 学科		kurauchi®gifu− u.ac.jp	災害発生時の交通ネットワークの被害がその後の活動に大きな 支障をきたすことは明らかであり、多少の被災は生じたとしても ネットワーク全体として交通機能を確保できるような頑健な交通 システムの構築が必要といえる、本企画では、災害発生時の 通管理のあり方や災害にそなえた交通計画など、災害発生時を 想定した交通課題およびその対策について取り扱う、災害発生 想定した交通課題およびその対策について取り扱う、災害発 したい、気害ないないないないないないないないないないないないない 通信理の方法について、実務面・研究面の双方の視点から議論 したい.	Apparently the degradation of transport network will cause difficulty in subsequent activities when large disaster occurs. It is therefore very important to maintain a function of the transport network system even some degradation may occur. This session covers transport issues when large disaster occurs and transport planning for constructing a robust transport network. We want to discuss needs for transport under different situation after disaster; emergency, recovery and reconstruction phases, and clarify the practical as well as research issues in transport planning and management in response to such transport needs.	実務・技術 者課題分 野	希望しない
災害	2	災害情報	Disaster Information	畑山満則·京都大学 防災研究所		hatayama@imdr.dp ri.kyoto=u.ac.jp	災害前に蓄積された知識と災害時に知りえた情報が複雑に絡 みう災害情報は、安全な避難を考えるうえで重要な要素の一つ である。近年では災害対応力をあげるため、リスクコミュニケー ション、防災教育、防災訓練から災害発生時の早期警戒システ ムに至るまで様々な研究が行われているが、依然、理論と実践 の間にある溝が埋まっているとは言い難い状況である、本企画 では、これらの災害時行動に影響を与える情報を取り扱う研究 に焦点を置き、様々な角度からの討議を行う.		集中討議 分野	希望しない
災害	3	災害からの復興	Disaster Restoration	奧村 誠·東北大学 災害科学国際研究 所		mokmr@m.tohoku. ac.jp	東日本大震災をはじめとする自然災害からの復旧、復興過程に おけるこれまでの取り組みとその問題点、今後の課題について の実証的研究から理論的な研究までの論文を公募し、災害リス クへの対応の考え方、土地利用の再編計画、社会経済活動の 回復の考え方、制度設計、合意形成などの問題について、幅広 く知見を交換する。	Recovery and restoration process after a disaster is discussed in this session, from theoretical to practical point of view. We want to discuss on the concept of disaster risk management in a restoration and land-use plan, restoration roadmap of social and economical activities in a region, legal system design, as well as public involvement in a planning process.	集中討議 分野	希望しない
災害	4	防災計画	Integrated Disaster Risk Management	高木朗義·岐阜大学		a_takagi@gifu- u.ac.jp	災害は地震や台風などの自然現象を引き金とするが、それが被 害を引き起こす過程には人間社会の複雑な営みが介在してい る。したがって、災害を人間社会の中で発生する社会経済現象 として捉え、災害直後や復興期から平常時までの災害対応を計 画論的視点から分析し、次の災害に備えていく必要がある。特 に近年、災害の社会・経済的な側面の重要性が認識され、災害 に対する都市・地域システムの構築、災害復旧・復興計画など、 防災に関する土木計画学分野への期待は益々高まっている。 本企画では、平常時および災害復興過程における地域を調査・ 分析し、今後の災害対応に活かす方法論等について討論する。		集中討議 分野	希望しない
災害	5		Economic Analysis of Disasters and their risk management policies	多々納裕一・京都大 学防災研究所		tatano@imdr.dpri.k yoto~u.ac.jp	近年の災害から明らかになってきた災害の経済分析上の課題 について集中的な議論を実施する。大規模災害はさまざまな影 響を経済にもたらす。交通ネットワークの寸断やライフラインの 機能停止、サプライチーンのす断やガリリン不足等の供給側の 要因や災害による失業や所得低下等に伴う需要の減少、復興 需要に伴う需要増加等の需要側の要因等を通じて、大規模災 害はさまざまな影響を経済にもたらす。これらの影響を整合的に 経済評価の枠組にいかに取り込むか集中的な議論を行いた い。また、本セッションでは、災害リスク軽減の施策導入の効果 を分析するための方法論やモデルなどに関する論文も歓迎す る。		集中討議 分野	希望する

災害		災害時も考慮した地域 モビリティ確保施策の展 開	Exploring effective measures for local mobility counting disasters.	有田幸司・国土交通 省総合政策局総務 課	田村亨·北海道大 学大学院 工学研 究院	arita- k22w@mlit.go.jp	地域のモビリティは、過疎化、少子高齢化等を踏まえその確 保・維持が近年より重要な課題となっている。加えて、東日本大 震災において、被災後の地域の円滑な移動を確保するにあた り、多様なモビリティの確保方策が必要とされたところであり、平 常時から災害時も踏まえた取組の重要性が高まっている。 そこで、本セッションでは、地域のモビリティ確保にあたり平常 時と災害時のそれぞれ特有の課題、双方に共通する課題につ いての検討を踏まえ、平常時から取組む工夫、東海、東南海・ 南海地震など今後想定される地域に対する取り組みのあり方 や、独自の工夫事例、さらに施策支援ツール等に関する研究成 果の発表・討議を行う。	Today, Local Transportations became an important issue with the declining birth rate and the aging of society. In addition, from the experience of the Great East Japan Earthquake, we have learned the necessity to secure various transportation choices and to preparation against disasters on normal time. In this session, we will discuss following points; ideas for daily challenges, strategies for the areas where disasters are predicted such as Tokai, Nankai, or Tonankai Earthquake, some examples with excellent or original ideas, and research results on policy support tools for transport.	実務・技術 者課題分 野	希望しない
災害	7	首都直下地震・東海・東 南海・南海地震に向け た災害対応 –東日本大震災を教訓と して–	Disaster response to possible upcoming large scale earthquake disasters	高田和幸・東京電機 大学理工学部建築・ 都市環境学系		takada@g.dendai.a c.jp	東日本大震災から約2年が経過し、少子高齢化・人口減少社会 を襲った複合的大規模災害で生じた問題も整理されつつある。 今回の地震における災害対応は、地域づくりにおける合意形 成、変通システムの復日・復興、モビリティーの確保、人的・物的 支援、財源負担の問題など多岐に渡り、過去に経験したことの ない問題も浮き彫りとなった。一方、首都圏では、莫大な数の帰 宅困難者や渋滞の発生など大都市特有の災害対応を迫られ た。これら、今回の地震で発生した問題点を教訓として、現在、 問題を抱えている東北地方および発生が想定されている大規模 地震災害に向けた災害対応のあり方について議論を深める。	The 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake occurred multiplex disaster under declining birth rate and aging population. Local governments and national governments conducted many disaster response activities. However, there are many problems in consensus building for regional planning, recovery and reconstruction of transportation system, mutual supports, financial supports and so on in damaged area. On the other hand, the railway system is completely shut down and tremendous traffic congestion had occurred in Tokyo metropolitan area. This session discuss the way of disaster responses for the upcoming large scale earthquake disasters.	実務·技術 者課題分 野	希望しない
自転車	8	自転車の安全分析 一 自歩道の課題をとらえ る一	Safety analysis of bicycle running on sidewalk	元田 良孝·岩手県 立大学総合政策学 部	宇佐美誠史・岩手 県立大学総合政策 学部	motoda@iwate- pu.ac.jp	我が国では自転車の歩道通行が一般的である。これは安全性 向上のために昭和45年から法的に認められてきているものであ る。しかし近年の研究によれば出会い頭事故が多い等歩道は必 ずしも車道より安全でないことが示されており、安全面でも自転 車の歩道通行の妥当性に疑問が投げかけられている。 ここでは自転車の歩道通行の安全性について、歴史的な視 点、車道走行との比較、多い事故形態の分析、ハードソフトの安 全対策、歩行者や自動車との相互関係、歩道走行から派生する 交通違反などについて研究発表と議論を行い、安全面から見た 自転車の歩道通行の総合的評価を行うものである。		実務・技術 者課題分 野	希望しない
自転車	9	自転車利用空間の整備 とその評価	Development and Evaluation of Bicycle Facilities in Japan	鈴木美緒・東京工業 大学大学院総合理 工学研究科人間環 境システム専攻	学大学院ソシオテ	mios@enveng.titec h.ac.jp	ますます自転車走行空間の整備が促進されるものと期待され る.その際,既に整備された自転車利用空間がもたらす効果の 知見の活用が望まれる.	The release of the guideline by MLITT and National Police Agency presents the clearer direction of bicycle facilities on carriageways. Therefore it requires the knowledge from the previous examples to develop them. In this session, the impact and evaluation of bicycle facilities (especially design of bicycling space in midblocks and intersections, and scheme of signs) will be discussed and the findings of these case examples will be confirmed from the standpoint of promotion, continuity and safety of developing bicycling networks on carriageways in Japan.	実務·技術 者課題分 野	希望しない
自転車	10	自転車政策の取り組み とその評価	bicycle transport policy and its evaluation	屋井鉄雄・東京工業 大学	吉田長裕・大阪市 立大学	tyai@enveng.titec h.acjp	近年、世界の各都市では、環境や健康問題を背景として、自転 車が都市交通手段として見直され、様々な領域において関連施 策が展開されつつあります。 自転車を考慮した持続可能な都市交通を実現するためには、 みちづくりやまちづくり、観光など影響範囲が広範に及ぶため、 関係する交通政策のあり方について理解を深める必要がありま す。 そこで本セッションでは、国内外における自転車政策に関わる 事例のうち、自転車計画のあり方やネットワーク計画、まちづくり と運動した共同自転車システム、さらにそれらの実現を促進する ためのソフト施策等に関わるテーマについて集中討議します。	Recently the bicycle is regarded as one of the main mode of transport in some cities and they have implemented various bicycle transport policy in response to environment and health concerns Therefore details of related urban transport policies are key elements to realize sustainable urban transport with bicycle. In this session, a broad range of topics among both international and national bicycle policy like bicycle transport planning, network planning, or bicycle-sharing schemes related with town planning as well as essential soft measures to realize the goal are all welcome to discuss.	実務・技術 者課題分 野	希望しない

途上国	15		Asian Developing	金 広文·京都大学 大学院工学研究科 都市社会工学専攻	力機構 国際協力	kimkwangmoon@to shi.kuciv.kyoto− u.ac.jp	アジアの開発途上国ではグローバル化に伴い国家・地域間の 相互依存関係が進み、各国の分業構造の相違とインフラ整備・ 運営水準の格差、そして地域共通・協調政策の不備が域内格 差や環境汚染を増大させ、域内の費用負担・利益配分に関する 厳しい利害対立を引き起こることから是正策の検討が求められ る一方で、多くの国々では数量的評価に必要な統計(一次統計 やSNA/10表などの加工統計)の整備不足や政策分析の経験 不足がポトルネックとなっている。本企画は東南アジア諸国、中 国を対象として、地域統合・経済・環境・インフラ整備などの政策 課題を数量的に分析するための統計整備・利活用のあり方を検 討することを目的とする	The aim is to promote the exchange of ideas among economists, researchers conducting quantitative policy analysis of global, environmental and regional socio-economic issues. The session will contribute to share the knowledge of compilation and utilization of integrated database for global and regional economics in the ASEAN and East Asian countries. Particularly, focus will be placed on policy modeling based on survey based data (1st data) and SNA/IO (Secondary processed data), CGE methods, and applications. The session also considers the important role of statistical integration from various areas within the national statistical system, regional cooperation in the area of statistics, including compilation and integration of statistical database, and infrastructure studies.	集中討議 分野	希望しない
途上国	14	途上国の社会基盤計画	Infrastructure planning in developing countries	加藤浩徳·東京大学		kato@civil.t.u− tokyo.ac.jp	多くの途上国では、急激な都市化が進行する一方で、依然とし て、社会基盤施設の整備が不十分であるため、生産性低下によ る経済成長阻害が懸念されるとともに、生活環境の悪化、貧困 の拡大、災害などへの能弱性などが深刻な問題となっている。 そこで、本セッションは、途上国の社会基盤に関わる諸問題を、 土木計画学の親点から調査・分析・検討する論文を募集し、問 題解決の方策や今後の望ましい方向性について、広く議論する ことを目的とする。なお、本セッションでは、英語論文のみを受け 付け、また発表および議論も英語の使用を原則とする。	This session welcomes submission of papers for presentation at the Conference of Infrastructure Planning and Management in spring 2012. It covers the planning/policy/technology for tackling with the infrastructure-related problems particularly in developing countries. It includes, but not limited to the following topics: infrastructure investment in developing countries; environment issues in low-income regions; urban transportation policy in Asian mega cities; and vulnerability in urban development. In this session, the submitted papers should be written in English and the presenters are also requested to talk and discuss in English.	集中討議 分野	希望しない
交通 データ	13	高速追路の交通マイン メントのためのデータの 利注用	Better Utilization of Data for Traffic Management of Expressway	宇野伸宏·京都大学 大学院経営管理研 究部	塩見康博・立命館 大学理工学部環境 システム工学科	uno@trans.kuciv.k yoto-u.acjp	高速道路ネットワークの円滑性、信頼性、安全性を高めていく上 で、各種の問題点を把握し、適切なマネジメントを実施していくこ とは、既存道路インフラの機能の高度化の観点からも重要であ る。本企画セッションでは、高速道路の効果的な交通マネジメン ト実施のために必要となる既存データの新たな活用方法、なら びに、新たなデータ収集法、および、その適用手法を提案してい る研究について発表をいただく予定である。その上で、必要とな るデータ収集、分析、評価の体系ならびにデータ活用上の課題 について集中的に討議を行うことを目的とする。	From the viewpoint of enhancement in function of road infrastructures, it is very important for us to recognize various problems which might deteriorate efficient, reliable and safe transportation service of expressway network and to implement suitable management. It is expected to have presentations about researches which adopt both new direction of utilization of existing data and new approaches to collect data necessary so as to implement effective and feasible transportation management in this session. Considering the researches presented, it is aimed at discussing a suitable system of data collection, analysis and evaluation utilizing data, and also practical issues related to data utilization.	集中討議 分野	希望しない
交通 データ	12	道路交通データの収	New developments in the collection and analysis of road traffic data	高宮 進·国土交通 省国土技術政策総 合研究所道路研究 部道路研究室	通省国土技術政策		国土交通省では、365日24時間の交通量データ、旅行速度 データの収集を目標とする「道路交通データの常時観測体制」 の構築を進めている。また民間ブローブデータを利用した潜在 的事故危険箇所の抽出等も考えられ、道路交通に関わるこれら データを効果的に利用して、道路における各種対策の立案、効 果計測等を実施していくことが考えられる。 本セッションでは、①交通量データ、旅行速度データ、ODデー タなどの道路交通データの収集や、②これらデータに加えて、ブ ローブデータなどを用いた道路交通状況の把握、対策立案、対 策効果計測等について、特に実務上の課題解決の観点から討 議する。	The Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism (MLIT) is building the Constant Observations (Continuous Observations) on Road Traffic Data intended to collect 24-hour per day 365-day per year traffic volume data and travel speed data. And identification methods of potential accident hazardous spots are studied by using private sector probe data. By using these road traffic data effectively, it is considered to propose road countermeasures of various kinds and to measure the effectiveness of them. In order to resolve practical challenges particularly, we will discuss [1] collecting methods of road traffic data such as traffic volume data, travel speed data and OD data, and [2] methods for clarifying the state of road traffic, proposing countermeasures by using these data and probe data, etc. at this session.	実務・技術 者課題分 野	希望しない
交通 データ	11	ビッグデータと交通モデ ルの融合	Big data and model fusion in transport	堀口良太・(株)アイ・ トランスポート・ラボ		rhoriguchi@i- transportlab.jp	情報通信技術の発達により、車や人の流れに関する多様な データが、大量かつ継続的に得られるようになり、いわゆる「交 通ビッグデータ」として注目を集めている。しかしながら、これら のビッグデータを総合的に分析し、価値のある情報を送出する ためには、個々のデータの計測原理や対象の違い、品質や分 解能の違いなどのギャップを補完する「モデル」の活用が不可欠 である。このセッションでは、高度な交通関連データと解析モデ ルやシミュレーションモデルを融合させて、常時変動する世界を 捉えようとする研究を集めて議論していきたい。	The recent progress on ICT make us possible to access huge and diverse transport data for both human and vehicles, so- called 'Transport Big Data'. It is essential, however, to produce the valuable intelligence by integrating the variety of transport data using models which can complement the gaps in terms of quality, resolution, means of measures, etc. in the big data. In this session, we will discuss the possible direction of data and model fusion with progressive researches.	速報的•萌 芽的分野	希望しない

途上国	16	巨大自然災害に対する 途上国の社会的対応	Social Response Mechanism of Developing Countries against Severe Natural Disasters	本田利器·東京大学 大学院 新領域創成 科学研究科	機松宗太・京都大 学防災研究所	rhonda@k.u− tokyo.ac.jp	開発途上国にとって、巨大な自然災害は、貧困層の生活環境や 発展途上の地域経済といった社会システムに影響を及ぼす深 刻な課題である。本セッションでは、途上国社会の災害脆弱性 や災害対応能力を理論的・実証的に分析し、コミュニティによる 対応、復興政策やガバナンス、海外支援のあり方などの具体的 な対策についての知見を得ることを目的とする、カタストロフィッ クな自然災害を想定し、従来の途上国研究の知見の発展や新 たな理論的枠組みの構築も視野に入れた討議を期待する。	regional economy. This session will discuss theoretically and empirically the vulnerability and response capacity of developing societies, aiming to obtain suggestions about what	集中討議 分野	希望しない
社会基 盤	17	人口減少時代のインフ ラの時空間管理	Spatial and temporal managementofinfrastruct ure in the context of population decline	植村哲士•野村総合 研究所	北詰恵一・関西大 学	tetsujiuemura@ya hoo.co.jp	国勢調査では依然として確認されていないものの、人口減少 は、依然として日本のインフラ管理において重要な脅威になって いる。人口減少時代のインフラマネジメントは、空間的な管理だ けでなく、時間的な管理も必要とされている。本セッションでは、 特に、人口減少時代の時空間管理に必要な基礎的研究(人口 動向の分析)、施設再編などの実務的研究、その他、インフラ管 理者が知っておくべき事例、事項、問題提起等に関する報告を 広く受け入れ、情報の共有と、今後の示唆を得たいと考えてい る。	Although we could not find any evidience of population decline in the latest national census of Japan, the population decline is still potential threat on sustainable infrastructure management. Infrastructure management for infrastructure managers. To aspirate and enlighten infrastructure managers who facing on actual issues of infrastructure managers who facing welcome all type of presentation like fundamental research of spatial and temporal demographic change, practical studies like reorganising infrastructure facilities, and the others like case studies, in order to share the knowledge and develop good strategies for copying with future problems on infrastructure management in Japan.	実務·技術 者課題分 野	希望しない
社会基 盤	18	長期的な社会基盤政策 の評価分析	Long run analysis of infrastructure policy	石倉智樹•首都大学 東京		iskr@tmu.ac.jp	少子高齢化、財政問題、環境問題、食糧問題、エネルギー政策、そして社会資本ストックの維持管理問題など、現代のわれわれが直面している社会経済リスクには、影響の波及範囲が時間軸上においても空間的次元においても大きな問題であるものが多い、本セッションは、社会基盤政策の評価分析を長期的・空間的視点から捉える手法論および応用研究について集中的に討議する。	Current social economic problems, such as depopulation, fiscal crisis, environmental issues, food issues, energy policy and infrastructure management, influence to wider range in both of time scale and spatial scale. This session discusses the frontier of methodology and applications of policy evaluation with dynamic and/or spatial viewpoints.	集中討議 分野	希望しない
物流	19	国際・国内物流ネット ワークにおける港湾	Port –International and Domestic Transportation Hub–	石黒一彦・神戸大学		ishiguro@maritime. kobe-u.ac.jp	国際物流においては、2国間・多国間における貿易障壁撤廃の 流れ、目前に迫るパナマ運河拡張、近年商用利用の事例が積 み重なりつある北極海航路の普及可能性の高まりなどによ り、今後さらに多様な海上輸送ネットワークの形成が予想され る。国内物流においては、国際戦略港湾の発展と活用による輪 出入企業の競争力強化のため、ならびに運輸部門における二 酸化炭素排出量削減のために、内航海運のさらなる有効利用 が欠かせない。本セッションでは、港湾、海運、ならびに関連す るロジスティクス環境の現状の課題と将来の見通しについて情 報を共有し、今後の港湾政策、海運政策、物流企業戦略のあり 方について集中討議を行う。	Further various maritime transportation networks will be formed in near future due to dramatic change in international transportation environment such as progress of bi-lateral and multi-lateral trade liberalization, expansion of Panama Canal and popularization of Northern Sea Route. It is desirable to make an effective use of coastal shipping in order to promote Super Hub Ports to reinforce international competitiveness of industries and to reduce carbon footprint of transportation sector in Japan. This session aims 1) to share information on current situation and future prospects of port, shipping industry and related logistics environment and 2) to discuss port policy, maritime policy and strategy of freight transport industry.	集中討議 分野	希望しない
物流	20	効率的かつ環境に優し く住みやすい都市のた めの物流システム		谷口栄一・京都大学 大学院工学研究科		taniguchi@kiban.ku civ.kyoto-u.ac.jp	効率的かつ環境に優しく住みやすい都市を創るために、物流シ ステムは重要な役割を担っている。本企画論文セッションにおい ては、都市における物流システムを効率化するとともに、環境へ の負荷を低減し、住みやすいまちを創るための方策について議 論を行いたい。たとえば、次のようなテーマの論文を募集しま す:都市における配車配送計画の高度化、高齢社会における ニーズを考慮した物流システム、のーコマースの普及に伴う物流 の変化に対応した新たなシステム、省エネルギーを考慮したト ラック以外の交通モードの活用、複数の利害関係者の行動を考 慮したマルチエージェントモデル、ITSを活用した新たな物流シ ステムなど。	Urban freight transport systems play an important role for creating efficient, environmentally friendly, and liveable cities. In this session we would like to discuss the methodologies for ensuring the efficiency as well as the environmental friendliness and liveability of cities. Examples of topics are: advanced vehicle routing and scheduling, freight transport systems associated with the development of e-commerce, the usage of other traffic modes than trucks for saving energy, multi-agent modelling for considering the behaviour of stakeholders, new freight transport systems using ITS, etc.	速報的•萌 芽的分野	希望しない

交通計 画	21	沈黙の交通計画論	Silence and Transportation Planning	久保田尚 · 埼玉大学 大学院理工学研究 科		hisashi@dp.civil.sai tama-u.acjp	交通計画における「沈黙」について考える5年目である。交通計 画におけるサイレント層(意見を言わない人々、調査に回答しな い人々)は、その位置付けが明確でないことが意思決定の妨げ になり、計画の進捗に影響を及ぼすだけでなく、時には地域コ ミニティの力を弱めるとともに、計画の基礎となる交通実態調 査の信頼性低下を深刻にしている。このような問題について、計 画論と調査手法論の両面から、サイレント層と非サイレント層に ついて交通計画における位置付けを明確にした、円滑かつ効率 的な実践的計画策定プロセスの構築を目的とした研究が必要と される。こうした課題について、広く議論していきたい。	Planning". There is no clear rule about how to deal the silent group, who do not show their opinions or do not respond to social surveys, in transportation planning. It leads some problems: disturbing consensus building, delay of plans, reliability of social surveys. We would like to discuss problems relating to "Silence" from the view point of planning theory and	実務·技術 者課題分 野	希望しない
交通 データ		交通系ICデータと交通 計画	Smart Card Data and Transportation Plan	中村文彦・横浜国立 大学大学院都市イノ ペーション学府		f-naka@ynu.ac.jp	本企画部門では、交通系ICデータの利用履歴を用いた調査研 究に焦点をあて、中長期データによる交通行動分析や交通現象 の解明、ネットワークデータの生成技術、可視化技術、問題課題 の発見支援、政策評価等の活用、交通戦略立案の支援等の 様々な事例について、意見交換を通して、現状の課題と今後の 展望を議論する。	In this session, we focus on studies with usage history of Smart Card data, and then, discuss current issues and future views on various cases such as analysis for traffic behavior and traffic phenomena using medium and long term data, technologies for network data generation, visualization technologies, support for finding issues and planning transport strategies.	実務・技術 者課題分 野	希望しない
環境	23	スマートシティにおける 運輸交通の低炭素化	Low Carbon Urban Transport in Smart City	奧嶋政嗣·徳島大学	秋山孝正•関西大 学	okushima.masashi @tokushima- u.ac.jp	環境的持続可能性を踏まえた環境未来型都市として、スマート シティが提案されている。スマートシティの都市開発において は、太陽光発電・エネルギーマネジメントを基本とするスマートハ ウスと、電気自動車・エコ型交通機関によるモビリティが提案さ れる。すなわち、都市の生活スタイルし都市活動)と空間移動(都 市交通)の統合的な運用が期待される。ここでは、スマートシティ の自動車交通と公共交通、交通運用と低炭素化、カーシェアリ ング、エコ型交通機関の利用等の課題について講論を行う。こ のように、低炭素社会の都市スタイルとして、環境未来型のス マートシティを前提した現実的な都市交通運用に関する問題解 析技術の議論を行いたい。	Smart city is proposed as future environmental city for sustainability. Mobility by electric vehicle and ecological transport system as well as smart house with solar photovoltaic generation and energy management is suggested on urban development for smart city. In other words, integrated operation of urban activity and transport is required. In the present session, some problems about smart city are discussed such as automobile traffic, public transport, transport management, low carbon transport, car sharing, ecological transport system and so forth. Discussions about solution methods for practical urban transport management on future environmental smart city are expected.	速報的・萌 芽的分野	希望しない
環境	24	低炭素社会実現のため の街区群のデザインと ロードマップ	Design and Roadmap of Building Blocks for the Realizing Low Carbon Society	加藤博和•名古屋大 学大学院 環境学 研究科	森田紘主•名古屋 大学大学院 環境 学研究科	kato@genv.nagoya −u.ac.jp	低炭素社会を実現するために、機器・建築・エネルギー・交通な どの要素技術を実際の都市・街区群の中でどのように配置し、 システムとして組み上げてしくかは、土木計画学における重要 な課題である。本セッションでは、街区群スケールを対象として、 各種要素技術を効率的に機能させるための空間構造デザイン、 およびそれらを支えるインフラ・エネルギー・資源循環・建築・制 度システムに関する研究発表や具体的な実施事例等を題材とし て、研究の方向性を議論する。	It is an important issue for civil engineering planning how elemental technology designed in the actual city for realizing a low carbon society, such as facility, architecture, energy system and transport system. In this session, we will discuss about design of spatial structure for operating various technology efficiently and a system supporting it, such as infrastructure, energy system, resources recycling, architecture and institution for building blocks.	速報的•萌 芽的分野	希望しない
国土形 成	25	減災と低環境負荷を両 立するレジリエントな国 土形成	Resilient cities and national land with disaster mitigation and low environmental impact	林良嗣·名古屋大学 大学院環境学研究 科		yhayashi@genv.na goya−u.ac.jp	今後の日本においては、気候変動や地震に伴う災害など自然 の猛威が増大し、それが少子高齢化・人口減少やスプロールな どによって脆弱化していく社会に降りかかる図式が懸念される。 これに対応した国土・社会を実現するためには、「自然の摂理」 を可能なかぎり理解し、国土と社会の脆弱性への緩和策と適応 策を見出し、レジリエント(resilient)な国土と社会を築き上げるた めの構想・計画・実施の方法論をつくり上げることが必要であ る。本企画セッションでは、減災を意識した「安心安全性」の観点 と、低炭素・省エネルギーでかつ気候変動に対応できる「持続可 能性」の観点を考慮した国土形成のためのデータベースや分析 手法について議論したい。	others would increase. In addition, fragility of national land and society will increase due to aging and urban sprawl. National land and society should tackle these difficulties in the future. Therefore, it is necessary to establish a methodology of concept, plan and implementation to realize resilient national	集中討議 分野	希望しない
ITS	26	ITS (高度道路交通シス テム)	ITS (Intelligent Transport Systems)	松本修一•慶應義塾 大学 理工学部	金澤文彦·国土交 通省 国土技術政 策総合研究所	shuichi@ae.keio.ac .jp	ETC, VICSやカーナビなどの普及, IT技術と道路との融合など により, ITSは先進技術の検討段階から社会に浸透させるため の新たな段階となるべき転換期を迎えている. このようななか, 今後は各地域における固有のニーズに基づくITSサービスや技 術の適応、現地での実導入が必要である. そのために本セッションでは、国内各地域で行われているITSの 実務的または先進的な事例研究や取組みを取り上げ, 今後の 方向性を討議する.	By the fusion of IT and roads caused by the wide promotion of ETC, VICS, and car navigation system, ITS is becoming into the turning point to the new stage from the deliberation stage of the advanced technology. Under these circumstances, ITS service, adaptation of ITS technology, and actual adoption in the local area based on the needs among the regions are needed from now on. In this session, we pick up useful case of ITS. Moreover, we discuss the implementation method of ITS.	実務・技術 者課題分 野	希望する

· · · · · ·										
LRT	27	LRTを活かしたまちづく り	Urban renewal with light rail system		伊藤雅・広島工業 大学工学部都市デ ザイン工学科	hatoko@ce.osaka− sandai.ac.jp	少子・高齢化、中心市街の衰退、環境問題の深刻化などへの対応として、わが国の都市へのLRT導入が提唱されて久しいが、現状ではLRTシステムそのものの情報は共有されつつあるものの、実際の導入は一部にとどまっており、まだまだ"道遠し"といった状態にある。 本企画セッションでは、このような現状を考慮し、導入に際しての社会的合意形成、明確にすべきLRTの理念や概念、関連するまちづくりの実際的事例、導入を進める際に行政がどのような困難に直面しているか、整備や運営の諸制度、道路空間の再配分問題、交通行動やまちづくりへの多様な効果とその評価方法などについて、多面的かつ集中的に討議したい。		集中討議 分野	希望しない
総合交 通政策	28	総合交通政策とまちづく り	Integrated Transportation Policy and Machizukuri	土井 勉·京都大学 大学院工学研究科	正司 健一・京都 大学大学院工学研 究科	doi@ulc.kyoto- u.ac.jp	まちの賑わいの再生や環境負荷の軽減などの役割を期待して、 公共交通の役割はこれからも大きくなるものと考えられる。しか し、人口の減少や高齢化などに伴い、公共交通の利用者数の 減少傾向が続いている。また、最新のパーソントリップ調査の結 果からは、働き盛り世代の自動車分担率の減少などモークリ ゼーションも限界に来ていることがわかる。我々が直面している 超高齢社会を支えるためにも、これからのまちの姿を踏まえた 新たな交通体系を構想することが望まれている。 ここでは、公共交通、自動車、自転車、PV、歩行など多様な交 通手段がまちづくりにおいて果たす役割と意義について議論を 行いたい.	In order to aim at reproduction of prosperities of a city, and mitigations of an environmental impact, public transportation is expected to play a more important role. However, while motorization is in a turning point because of decrease in modal sprit of car, public transportation also faces many problems.We would like to discuss the part and importance of various means of transportation for machizukuri.	実務・技術 者課題分 野	希望しない
アセット マネジメ ント	29	アセットマネジメントと道 路政策	Asset Management and Road Policy	小林潔司·京都大学 経営管理大学院	貝戸清之・大阪大 学大学院	kobayashi.kiyoshi. 6n@kyoto-u.ac.jp	ちろんのこと、劣化リスク評価に基づく維持管理戦略、費用効率 性を重視した維持補修戦略,社会的総余剰を考慮した維持補修 戦略など、コア技術に付随する道路政策について集中的に討議	In this session, discuss intensively the core technologies related to asset management such as deterioration prediction and life cycle cost evaluation. Besides debate road policies associated with the core technology such as maintenance and repair strategy that takes into account the deterioration-risk evaluation, the cost~efficiency and the total social surplus. In addition, discuss international expansion of asset management.	集中討議 分野	希望しない
観光	30	土木計画学と観光科学	Infrastructure Planning and Tourism Science	岡本 直久・筑波大 学 システム情報系 社会工学域	清水 哲夫·都市 環境学部	okamoto@sk.tsuku ba.ac.jp	わが国の成長産業として観光が位置づけられ、観光に対する国 の期待が高まっている。と同時に土木計画学分野でも多様なア ブローチによる観光研究が展開されている。その対象は、観光 地、観光交通、観光行動分析、観光政策・行政、インパウンド、 アウトバウンド等極めて多様化している。 本セッションでは、広く観光に関する研究を取り上げ、多様な観 点から今後取り組むべき観光研究について議論を行うことを目 的とする.	Tourism became important industry in Japan and the expectation for tourism is growing. Simultaneously, the tourism researches by various approaches have been done in the field of infrastructure planning. These objects are diversified extremely such as resort planning, travel behavior, tourism activities, tourism policy and administration, and inbound, outbound policy and so on. In the session, the researches on tourism are taken up widely and it aims at discussion about the tourism research from various viewpoints.	速報的•萌 芽的分野	希望しない
救急医 療	31		First aid transportation to support local medical care(First aid medical care first/aid transportation)	高山純一・金沢大学 環境デザイン学系	二神 透・愛媛大 学防災情報研究セ ンター	takayama@t.kanaz awa-u.ac.jp	人口減少・高齢化など、地域を取り巻く社会環境の悪化が間近 に迫っており、特に「通疎地域の地域医療」は医者不足や3次数 急医療機関の都市集中により、ますます課題が大きくなってきて いる。そのなかで、高速道路等の整備を含め、社会インフラの整 備が進む中で、救急医療を取り巻く環境も大きく変化してきてお り、今後、どのように地域医療の支援を検討していけばよいの か、不明である。ここでは、地域医療を支援するための方法論と その課題について討議を行う.	In the depopulated area, aging is progressing increasingly with the decrease in population. As for "community medicine of a depopulated area", a subject is becoming increasingly large by the shortage of doctors, and the urban centralization of a 3rd emergency care organization. It is unknown in what should just consider support of community medicine how from now on based on such a situation. Here, we argue about the methodology and subject for supporting community medicine.	速報的•萌 芽的分野	希望しない
空間統 計	32	空間統計	Spatial statistics	瀨谷創•国立環境研 究所	堤盛人·筑波大学	seya.hajime@nies. go.jp	土木計画学における政策分析・予測・評価やそのためのモデリ ングにおいては、様々な空間データを扱う必要があり、空間デー タに内在する特質とこれに対する統計学的な面での考慮の必要 性に関して、従来からその重要性が認識されてきた。近年、この ようなデータを扱う学問分野である空間統計学や空間計量経済 学は、実用化に向けて目覚ましい進歩を遂げている、本セッショ ンは、空間データを扱った統計学的なアブローチによる様々な 研究を公募し、その最新の研究動向についての情報交換と議論 を行うことを目的とする.	For the modelling in infrastructure planning, many kinds of spatial data is utilized. Researches have suggested the importance of considering such spatial aspects of data for obtaining reliable results. In these days, various statistical techniques for modeling spatial data have been developed including in Spatial Statistics and Spatial Econometrics, and applied researches has been increased drastically. This session invites the various researches which relate to spatial data analysis using statistical techniques. We exchange the latest information, and discuss.	速報的 · 萌 芽的分野	希望しない

景観	33	地域のまちづくりビジョ ンと景観形成を考える	Discuss the landscape planning & design for the regional planning vision	佐々木葉・早稲田大 学	岡田智秀・日本大 学	yoh@wasedajp	景観形成とは構造物等の物的なかたちづくり(デザイン)にとど まらず、その地域の「暮らしの姿」そのものの眺めを印象づける 操作ともいうことができる。つまり、その地域で暮らす人々にとっ て大切な場所・事象をはじめ、その地域の生活株式やライフスタ イルなどを印象深く「見える化」する手だても景観形成の一つと いえる。当セッションでは、地域の環境・交通・産業・防災・コミュ ニティ活動等へのまなざし、すなわち「地域の暮らしの風景」に 焦点をあて、特に様々な地域的問題を有する地方都市が活力 をもって生きながらえるための地域ビジョンに対し、景観形成が どのような役割を担うべきか、担えるかの討議にかなう発表を期 待する。	environment design but also view control of local community. This session focuses on the view control of local community for realizing the sustainable regional planning. Keywords of this session are the local environment, traffic, industry, disaster prevention, community activity and so on.	集中討議 分野	希望しない
健康	34	健康と土木計画	Infrastructure Planning and Management for Human Health	安東直紀・京都大学 工学研究科・医学研 究科 安寧の都市 ユニット	溝上章志・熊本大 学大学院自然科学 研究科環境共生工 学専攻	n− ando@kiban.kuciv. kyoto−u.ac.jp	我が国が平成7年に超高齢社会に突入してからすでに6年が 経過しているが、人口減少・高齢化の度合いは今後さらに加速 し、世界中のどの国も経験したことのない未来が我々の目前に 広がっている。健康と幸福は全ての国民の関心事であるが、今 日では行政が準備した単体の医療・福祉でこれらを実現するこ とは困難となっており、まちづくりを始めとした様々な仕組みで住 民の自助・共助を活性化することで健康・幸福を実現することが 求められている。この実現に土木計画はどの様な貢献が可能で あるかについて、理論的な考察から実践的な検証まで様々な取 り組みを報告し議論する。	or cooperation of residents for realizing their own health and welfare. In this session, we will report and discuss how	速報的•萌 芽的分野	希望しない
合意形 成	35	政策合意形成	consensus building on public policy	矢嶋宏光 · 財団法人 計量計画研究所	寺部慎太郎・東京 理科大学	hyajima@ibs.or.jp	本企画セッションの目的は、政策立案やその執行における合意 形成過程について、実務的な研究を深度化させることである。特 に、意見の分かれる政策に関しての社会的意思決定やステーク ホルダーとの合意形成について、市民参加や紛争解決に関わ る方法論の構築、様々な手法の実践や実験、事例分析などの 報告を歓迎する。	The purpose of this session is to advance the researches about consensus building on public policy. Presentation about methodology, practice, experimentation and case study related to consensus building, conflict resolution and public participation for controversial policy issues are welcomed.	実務・技術 者課題分 野	希望しない
航空輸 送	36	規制緩和時代の航空輸 送	Air Transport in the Era of "Liberalization"	竹林幹雄•神戸大学 大学院海事科学研 究科	花岡伸也・東京工 業大学大学院理工 学研究科国際開発 工学専攻	takebaya@kobe- u.ac.jp	西国際空港株式会社が立ち上げられる一方,他方で地方空港 およびローカル路線の維持・存続が問題になっている。このよう にわが国の航空政策,空港運営については今もって解決すべき 問題が山積している。 以上のような問題意識のもと、本企画では今後のわが国に関わ	As for the airport management, Shin-Kansai Airport Authority has been established, while there are lots of problems of local airports as well as local services. Thus, we still face so many issues relating to air transport and airport management which should be tackled. This session deals with these contemporary	集中討議 分野	希望しない
高速道 路料金	37	償還主義に代わる高速 道路料金設定基準およ び料金水準の検討	Examination on highway toll principle replacing the full-cost- toll principle	河野達仁·東北大学 大学院情報科学研 究科	武藤慎一・山梨大 学大学院医学工学 総合研究部	kono@plan.civil.toh oku.ac.jp	これまで、高速道路の料金水準は、償還主義+ブール制に基づ いて決定されている。近年、政治主導による休日や通動の料金 割引が、対症療法的に行われている。このような料金改訂が今 後も続くと、改訂の基準が不明瞭というだけでなく、その改定さ れる料金変化に伴う交通需要予測の将来値を設定できず、道 路整備延長の決定もできない。そのため、近い将来に、償還主 義+ブール制に代わる新しい料金設定基準の構築が必要にな ると考えられる。本企価では、このような観点から、今後の望ま しい高速道路の料金設定基準やその基準に基づく料金水準の 妥当性等について議論する。	The toll level of expressway has been decided based on full- cost-recovery principle and pool system. Recently, policy makers however have discounted the toll on holidays and during rush-hours without any economic reasons. If this tendency continues, road investers cannot forecast the future traffic demand, so they cannot decide the total road length to be constructed in future. Therefore, a criteria to set up the toll level of expressway should be developed. In this session, from such point of view, we discuss what kind of criteria to set up and/or what level of toll is appropriate.	集中討議 分野	希望しない
制度設 計	38	交通料金と制度設計	Mechanism design through pricing policies for transportation services	松島格也·京都大学		matsushima.kakuy a.7u@kyoto- u.ac.jp	近年のITS. 交通ICカードといった高度通信技術の進展により, 多種多様な交通料金が提示出来る。交通サービスの多様な価 格設定は、サービス提供者にとって知ることの出来ない消費者 の個人情報を顕示させるメカニズムとして機能するとともに、個 人の様々な行動のコーディネーションを図る役割を果たしうる。 本セッションでは、交通サービスのブライシング戦略を通じた制 度設計のあり方について理論的・実証的に検証する. 具体的に は、ITS技術を活用した交通需要マネジメント、交通Cカードの活 用による交通行動と消費行動のコーディネーション、高速道路 料金設定を通じたガバナンス、などについて検討する.	Now a days, a large variety of transportation fees can be proposed thanks to the technological development in the field of ITS and transportation IC services. They functions as an efficient allocation mechanism of services by revealing private information and also as a coordination mechanism of individuals' behavior. In this session, both theoretical and practical researches will be presented in the field of mechanism design for transportation services, e.g., transportation demand management with ITS technology, coordination mechanism of transportation behavior and consumption behavior with transportation IC card, a governance policy with highway toll fee.	集中討議 分野	希望しない

交通経 済	39	交通経済評価	Economic Evaluation of Transportation Measures	吉井稔雄•愛媛大学		yoshii@cee.ehime− u.ac.jp	高速道路の通行料金、自動車関連税あるいは公共交通機関に 対する補助金といった各種交通施策を対象として、社会的な観 点から最適な料金水準や税率を設定することが求められてい る。また、最適な水準を設定するためには、各交通施策の料金 レベルや税率の違いが交通行動および諸経済活動に与える影響を定量的に評価する政策評価ツールの開発が必要と考えら れる。そこで、本企画セッションでは、短期的複界の下あるいは 経済活動の立地を考慮した中・長期的な視点の下において、各 種の交通施策が交通・経済に与える影響を評価した研究を募集 し、その内容および今後必要とされるモデル/データに関する議 論を行う。	Effective transportation measures such as expressway tolls, automobile-related taxes or subsidies for public transport are expected to be carried out for improving social benefit. In order to set the optimum levels of them, these impacts on travel behavior and economic activities should be understood. In this special session, studies relating to this issue under both short- term and long-term perspective are invited, then the models required to be established, data required to be obtained and relating issues are discussed.	集中討議 分野	希望しない
交通性 能照査	40	道路の階層区分を考慮 した交通性能照査手法 の提案	Proposal of a traffic- performance examination method taking account of hierarchical road classifications	下川澄雄・日本大学 理工学部社会交通 工学科	野中康弘·株式会 社 道路計画	shimokawa.sumio @nihon−u.ac.jp	わが国の道路においては、階層区分に応じた道路交通サービス の提供がなされていない状況にある。このことから、道路の持つ 機能を明確にし、性能を適切に発揮できる計画・設計を行ってい く必要がある。一方で、昨今では、地域の実状に合った柔軟性 のある道路計画・設計への見直しのための議論も活発に行われ ている。これらに対し、本セッションでは、道路の機能を確保し、 安全で交通性能向上に寄与する計画・設計手法や交通運用方 法を中心に議論する。関連の論文を広く公募し、事例報告も含 め実務からの投稿を特に歓迎する。	In this session, we will discuss planning and design as well as methods of traffic operation that sustain road traffic services in line with hierarchical classifications, are safe and help to improve traffic-performance.	集中討議 分野	希望しない
動学	41	ネットワークモデルの動 学化・確率化・精緻化	Dynamics, stochasticity and elaboration of network models	中山晶一朗·金沢大 学	円山琢也・熊本大 学	snakayama@t.kana zawa−u.acjp	交通ネットワーク分析は、ネットワーク均衡モデルを中心に様々 な方向に進展してきている。本セッションでは、特に、動的な現 象である渋滞をより適切にとらえるための、ネットワークモデル の動学化、信頼性などを検討する際の基本となるネットワークモ デルの確率化、イ動モデルとの融合、アルゴリズムの開発やそ の他のネットワークモデルの精緻化を中心に、ネットワーク分析 やそのモデルの最新の研究を速報的に発表・議論する。本セッ ションにおける発表および議論を通じ、今後のネットワーク分析 の方向性について各参加者がそれぞれの展望を持てるようにな ることを期待したい、	The network analysis is progressing in the various directions. In this session, dynamical aspects of network models, where dynamic traffic congestion is described more appropriately, stochasticity of network models for reliability analysis, and their elaboration such as algorithm development, and merging with behavioral models are discussed. We hope that each participants find their own perspectives through this session.	速報的∙萌 芽的分野	希望しない
道路信 頼性	42	道路の信頼性評価	Evaluation of Reliability for Road Traffic	福田 大輔·東京工 業大学大学院	朝倉 康夫·東京 工業大学大学院	fukuda@plan.cv.tit ech.ac.jp	本セッションは、道路の信頼性評価に関する研究、例えば、国の 施策における信頼性の位置付けや評価事例、高速道路におけ る取り組み、ネットワーク脆弱性の評価、時間信頼性の評価、及 び、それらに資するデータ収集・活用方法等に関する研究を募 集し、今後の信頼性研究のあり方について包括的な討論を行う ことを企図している。	research presentations about the evaluation of reliability for road traffic. We call for papers on practices in national road	集中討議 分野	希望しない
生活交通	43	生活交通確保のための 知と実践	Knowledge and Practice for Sustaining Local Transport Services	喜多秀行·神戸大学	谷本圭志·鳥取大 学	kita@crystal.kobe− u.acjp	交通基本法案は時間切れ廃案となったが、法案が求めた国レ ベルや自治体レベルでの交通基本計画策定の必要性はなお喫 緊の課題である。そのためには、計画方法論の整備や現場から 得られた知見の集約など、これまで得られた成果をさらに発展さ せるための知と実践両面からの共同作業が改めて求められて いる。そこで、本企画セッションでは、さまざまな学術的・実践的 取り組みを通して提案された調査・分析・診断・設計・評価など の計画諸手法やそれらを地域社会に組み込むためのさまざま 工夫を持ち寄り、生活交通サービス確保のための計画技術のさ らなる高度化と実用展開を図るべく、"知と実践の相互触発"の 場を創出したい.	Even though the Basic Transport Law bill has been approved, the importance of the basic transport plans both in national and regional level has not changedFor such a purpose, it is necessary to integrate a substantial amount of findings obtained from many site and developed methods and methodologies in research institutes. This organized session aims to provide an opportunity for mutual emergence between researchers and practitioners for sustaining local transport services.	実務・技術 者課題分 野	希望する
モビリ ティ	44	地域におけるモビリティ と生活支援サービスの 連携	Cooperation between mobility and life support services in region	吉田 樹·福島大学	柳原 崇男・近畿大 学	itsuki– y@mue.biglobe.ne.j p	地域公共交通や店舗等の撤退により、食料品や日用品、医療 サービスなどの調達が困難になった地域や市民への施策が課 題になっている。個人による物やサービスの調達方法は多様で あるが、その調達を持続的に保障するためには、モビリティの権 保と、宅配や在宅医療サービスなどの生活支援サービスとを一 体に捉え、双方の連携や補完の可能性を明らかにすることが有 効である。 本企画セッションでは、生活支援サービスによる活動の代替/ 補完可能性、モビリティと生活支援サービスの提供方法などを集中 討議する。		集中討議 分野	希望しない

都市間 旅客交 通	45	都市間旅客交通の調 査・分析・評価手法の開 発	Development of survey, analysis and evaluation technique for the inter-city passenger transportation	柴田宗典•鉄道総研	塚井誠人・広島大 学	mshibata@rtri.or.jp	都市間の旅客交通には交通発生の非日常性、旅客の情報の不 完備性、需要薄によってサービス供給が制約される、特に複数 機関が統合利用される経路における遅延や欠航リスクなどの、 都市間交通ネットワークに固有の特性があり、都市圏内の交通 行動分析・計画の方法論を、そのます適用できない、本セッショ ンでは、全国幹線旅客純流動調査において課題となっているト リップ発生頻度に関して周辺統計情報を活用したサンブル調査 に対する適切な拡大係数の付与方法、乗り継ぎ・乗り換えを伴う 交通行動など、都市間旅客交通に固有の特性を考慮した調査 方法・分析方法の開発に関わる研究を募集し、討論を行う.	Inter-city Passenger Transportation has particular characteristics which are not found in urban daily transportation, such as irregular trip generation, incomplete information of trip makers, supply of service subjected to thin demands, complex effect of service through multi-moda network, and so on. Development trials of new survey, analysis, and evaluation techniques considering characteristics of inter- city transportation above are widely gathered and discussed in this session.	速報的•萌 芽的分野	希望しない
都市鉄 道	46	都市鉄道における政 策・研究の課題	Urban Railway Policy and Research Issue	日比野 直彦•政策 研究大学院大学	金子 雄一郎・日本 大学	hibino@grips.ac.jp	人口減少・少子高齢化や経済状況の悪化による旅客需要の減 少、相互直通運転および高頻度運行に伴う列車遅延の発生、都 心ビルの容積率緩和に起因した通勤混雑の悪化等、現在も都 市鉄道に関する多くの課題が存在している、人口減少・少子高 齢社会においても魅力と活力のあら「都市鉄道」はよび「沿線地 域」であり続けるために、これらの課題に関する研究を集い、本 企画セッションでは、今後の都市鉄道サービスのあり方やまちづ くりとの連携方法等について議論する.	There are many issues of urban railway system such as the reduction in passenger demand in aged society, the knock-on delay caused by the directly operation and the high frequency operation, the congestion in the peak commuting hour by the deregulation policy of office building capacity and so on. In this session, both policy and research of urban railway are discussed in order to solve the issues.	集中討議 分野	希望しない
都市モ デル	47	計画プロセスにおける 都市モデルの利活用	Practical urban models on planning process	鈴木温·名城大学		atsuzuki@meijo- u.ac.jp	都市・地域計画の実務での活用を目的とした都市モデルは、土 地利用/交通統合モデルをはじめ、国内外で数多く開発、実用 化されている。近年では、気候変動、エネルギー、防災、雇用な ど、その適用範囲は広がりを見せている。また、我が国の多くの 都市では、人口減少、少子高齢化による世帯構成の変化等の 社会変化にも対応する必要がある。本セッションでは、このよう に変化する都市問題のニーズに対して、マイクロシミュレーショ ンタイプなど、最近の都市モデルの開発状況、計画プロセスに おける都市モデルの利活用方法、今後のモデル開発に求めら れる要件等について集中的に討議を行う。	Practical urban models such as land-use/transportation integrated models have been developed to be used for the process of urban and regional planning. The applied areas are expanding to climate change, energy use, disaster prevention, employment and so on. In most of local cities in Japan, it is also necessary to tackle urban problems under decreasing population and social change cased by declining birthrate and ageing population. The aim of this session is to discuss latest topic about model development such as micro-simulation, effective use of those model in planning process, required function and implications for the better planning.	集中討議 分野	希望しない
平面交差	48	平面交差部の安全・円 滑	Safety and efficiency of at-grade intersections	鈴木 弘司•名古屋 工業大学大学院		suzuki.koji@nitech. ac.jp	平面交差部は、容量上、安全上の要衝であり、道路の性能に大 きな影響を及ぼすため、適切に計画・設計・運用制御することが 求められ、これまでも数多くの検討がなされてきている。 本セッションでは、信号切り替わり時の利用者の判断・行動、車 両挙動、交差点近傍での歩行者・自転車・自動車間に発生する 錯綜現象に関する実証的な分析やそれらを考慮した安全性評 価システムの開発。また構造改良、路面視示等のて実、交差点 での安全支援デバイスの設置等の実務的な検討事例、さらには 円滑性、環境面へ配慮した新たな信号制御の検討など、交差点 構造・制御に関する様々な研究成果をもとに、望ましい平面交 差部のあり方について幅広く議論したい、	We would like to discuss the future aspects of at-grade intersections being ensured safety, effectiveness, etc through various analyses that has conducted for the purpose of not only traffic capacity and safety at signalized and unsignalized intersections, but also structurally-engineered intersections, well thought out operation and with new-type traffic signal control for improving the performance of at-grade intersections.	集中討議 分野	希望しない
ラウンド アバウト	49	安全でエコなラウンドア バウトの実務展開	Towards practical deployment of safer, ecological and economical roundabout in Japan	米山 喜之・株式会 社長大 道路事業本 部 道路交通部	神戸 信人・株式会 社 オリエンタルコ ンサルタンツ 関西 支店 技術二部	yoneyama− y@chodai.co.jp	ラウンドアバウトは、安全でエコで、災害に強い平面交差部の制 御方式として注目され、日本においては近年、ラウンドアバウト の性能、計画設計などの研究が進められている。 長野県飯田市東和町では、信号交差点をラウンドアバウトに改 良中であり、軽井沢町では、無信号交差点をラウンドアバウトに改 良した社会実験が実証中、寒冷地における導入方法の検討 など実務展開に向けた様々な動向も見られる。 本セッションでは、ラウンドアバウトの安全性、円滑性について、 設計事例や研究成果を募集し、性能向上につながる構造・運用 形態、さらなる実務上の展開方策、課題等について、集中的な 討議を行う.	Roundabouts have been focused as a safer, ecological and economical traffic control method for the at-grade intersection which is preventive against the disaster. In recent years in Japan, performance and planning/design of roundabouts are also being studied. At Towa-cho intersection in Iida City of Nagano Prefecture, the existing signalized intersection has been replaced with a roundabout. At Town of Karuizawa, a social experiment has been demonstrated in which the existing unsignalized intersection is improved as a roundabout, moreover various types of study are being studied, such as the introduction in cold area. In this session, contributions regarding roundabouts are widely open. Possible strategies and practical issues for its deployment in Japan will intensively be discussed.	集中討議 分野	希望しない